



INDEX

P 1 ー代表挨拶

P 2、3、4 ー活動交流事業
「青少年団体を訪ねて」

P 4 ーゆめ企画コンテスト
助成団体事業報告（カモシネマ6）

優しさを持った人に・・・

京都青少年ゆめネットワーク代表 神崎清一

私の子どもの頃、大人の娯楽の代表的なものを揶揄して「立てばパチンコ、座ればマージャン、歩く姿は馬券買い」という言葉がありました。子どもたちといえば、男の子は三角ベースを始めとした野球が一番の遊びだったように思います。場所は「ドラえもん」の世界のように空き地や路地が子どもたちの集まってくる場所でした。

また、今の子どもはサッカーをはじめとした野球以外のスポーツが主ではありますが、いざれにしる遊びの中ではチームが作れるほど子どもたちが集まらないという状況になっています。大学生時代にマージャンをするにも、その4人が集まらないという話も聞きます。

学校や、塾、クラブやサークル、もしくはある団体への所属などをしないと集まれないのでしょうか。いや、一方では、自分たちで新しいグループを立ち上げたり、パソコンや携帯電話などを利用して、新しいネットワーク構築している人々も多くいます。

今、求められる青少年の姿や団体の形はどのようなものなのでしょうか。

さて、私はしばしば「何故ゆめっとを始めとした、青少年活動にかかわっているのですか」と質問を受けることがあります。

私は「自分自身が少しでも優しさをもった人間になりたいから、そして社会の一人ひとりが他者や自分自身にもっと優しくなってほしいから」と答えます。

青少年の時代に、多くの交流や共同体験、ミーティングなどを通して価値観の相違を認めつつ合意形成をみることや達成感を得ることは、とても素晴らしいことだと思っています。このことが自分自身を作り上げていき自信となり、社会の課題や他者の持つ痛みを感じることで、本当に人に優しくできるのではないのでしょうか。

2011年ゆめっとは15年を迎えます。新たな歩みを皆さんと模索しつつ、次への歩みを始めましょう。



北田正明さん（セントジョンアンビュランスジャパン協会）が平成22年10月に逝去されました。ゆめっと京都の活動・運営に多大なご尽力を頂きました事に感謝しますと共にここに謹んでお悔やみ申し上げます。